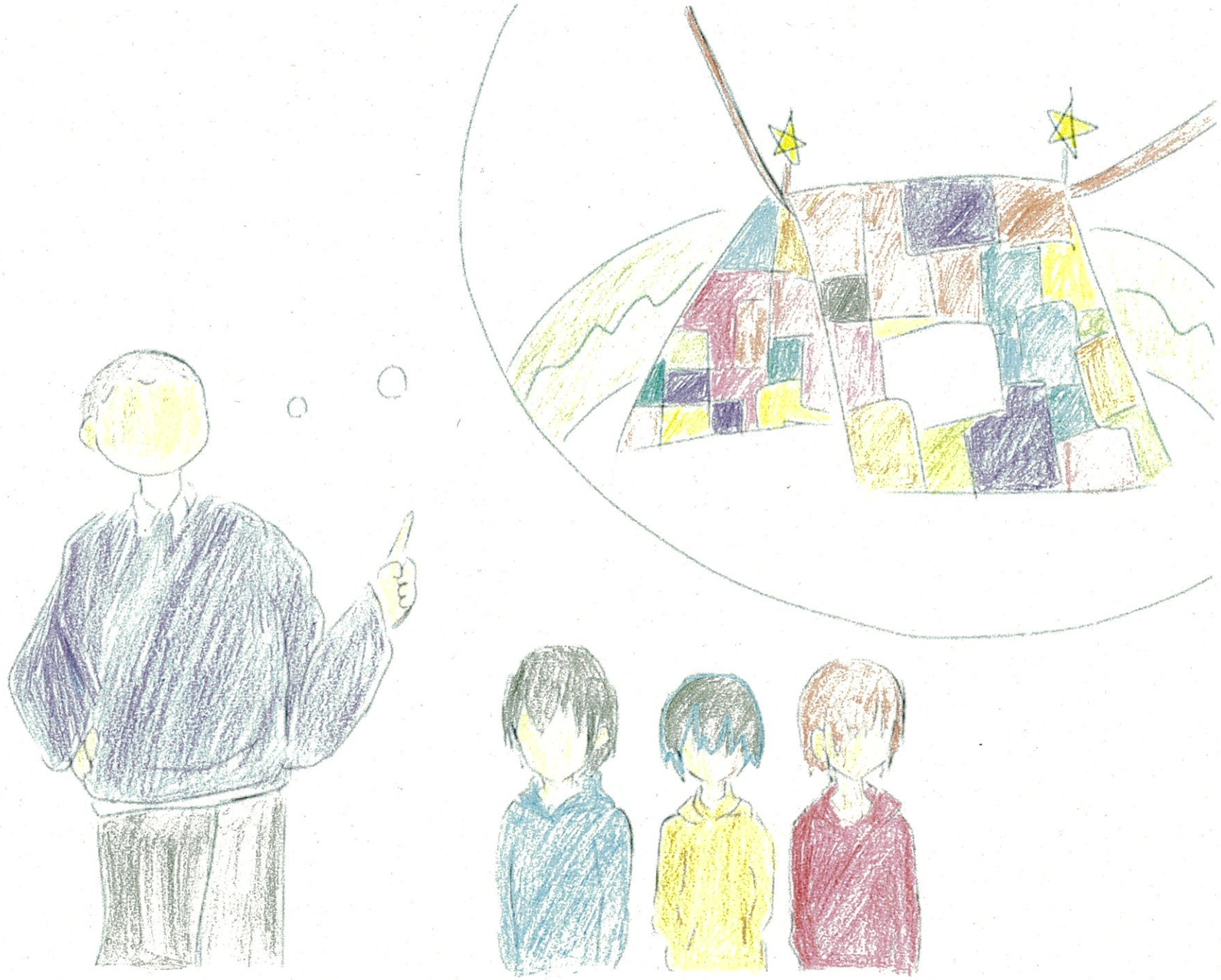
まほうのことば

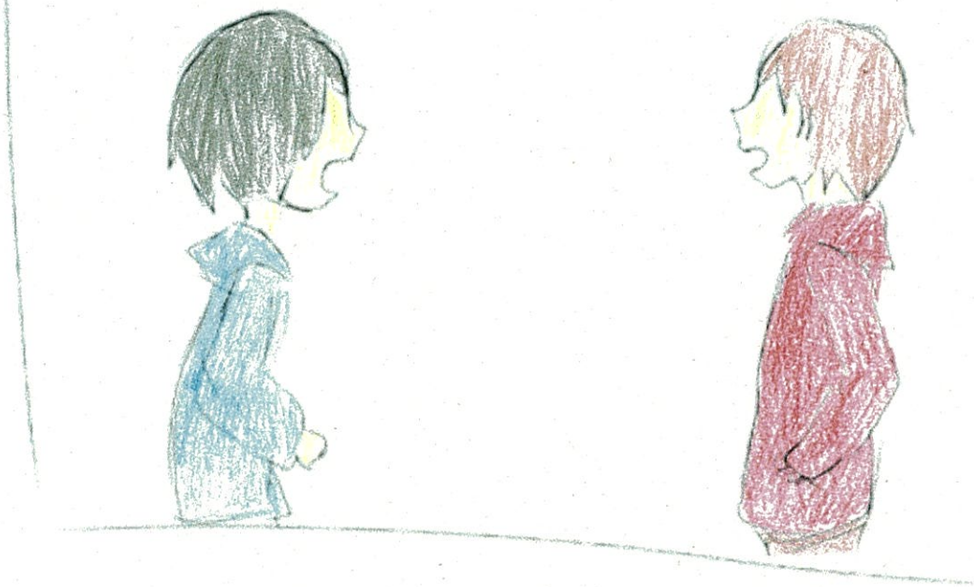
上田涼太郎

今日ぼくは
みんなのヒーローになった。

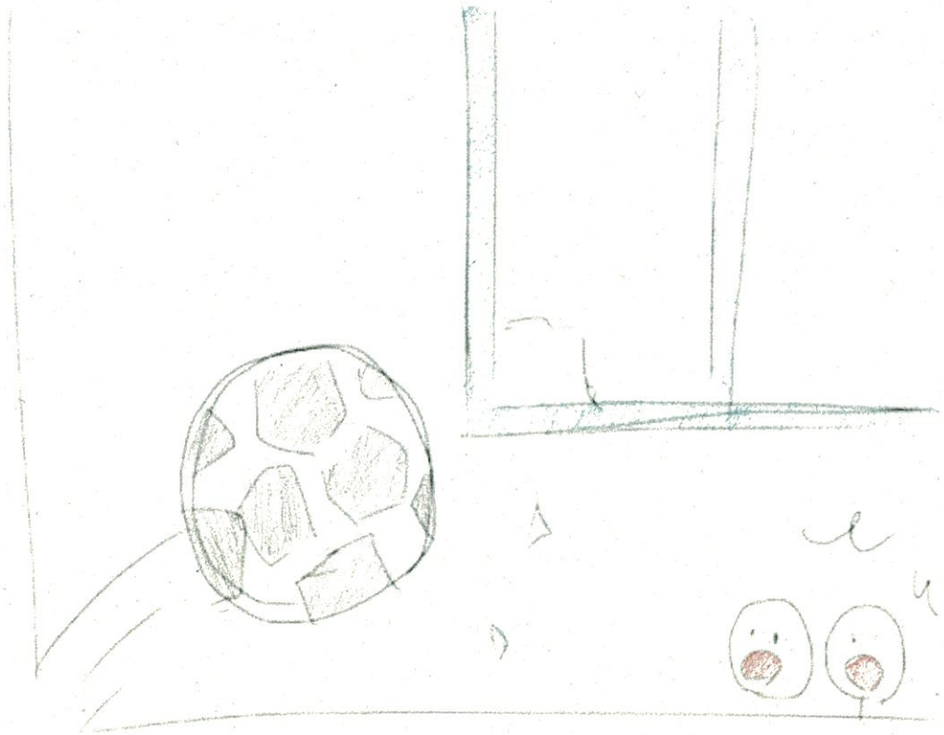
今日ぼくは
ともだちと、ひみつきちを作くった。

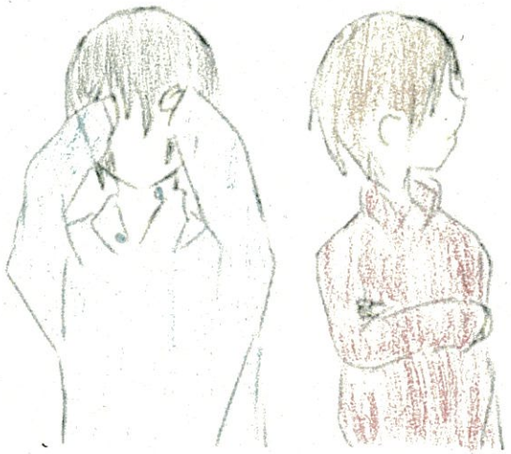


今日ぼくは
タカシくんとケンカした。



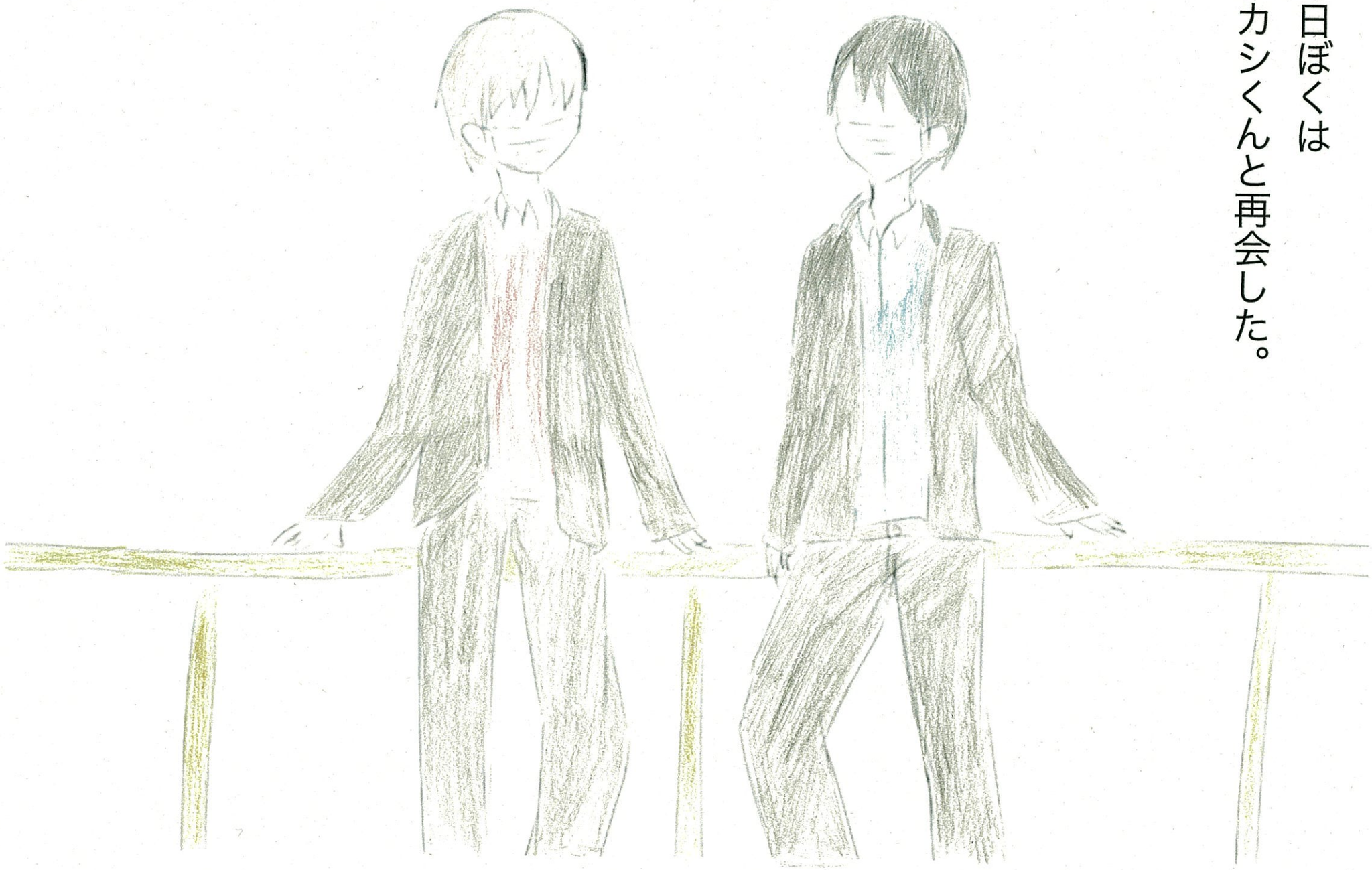
今日ぼくは
先生におこられた。





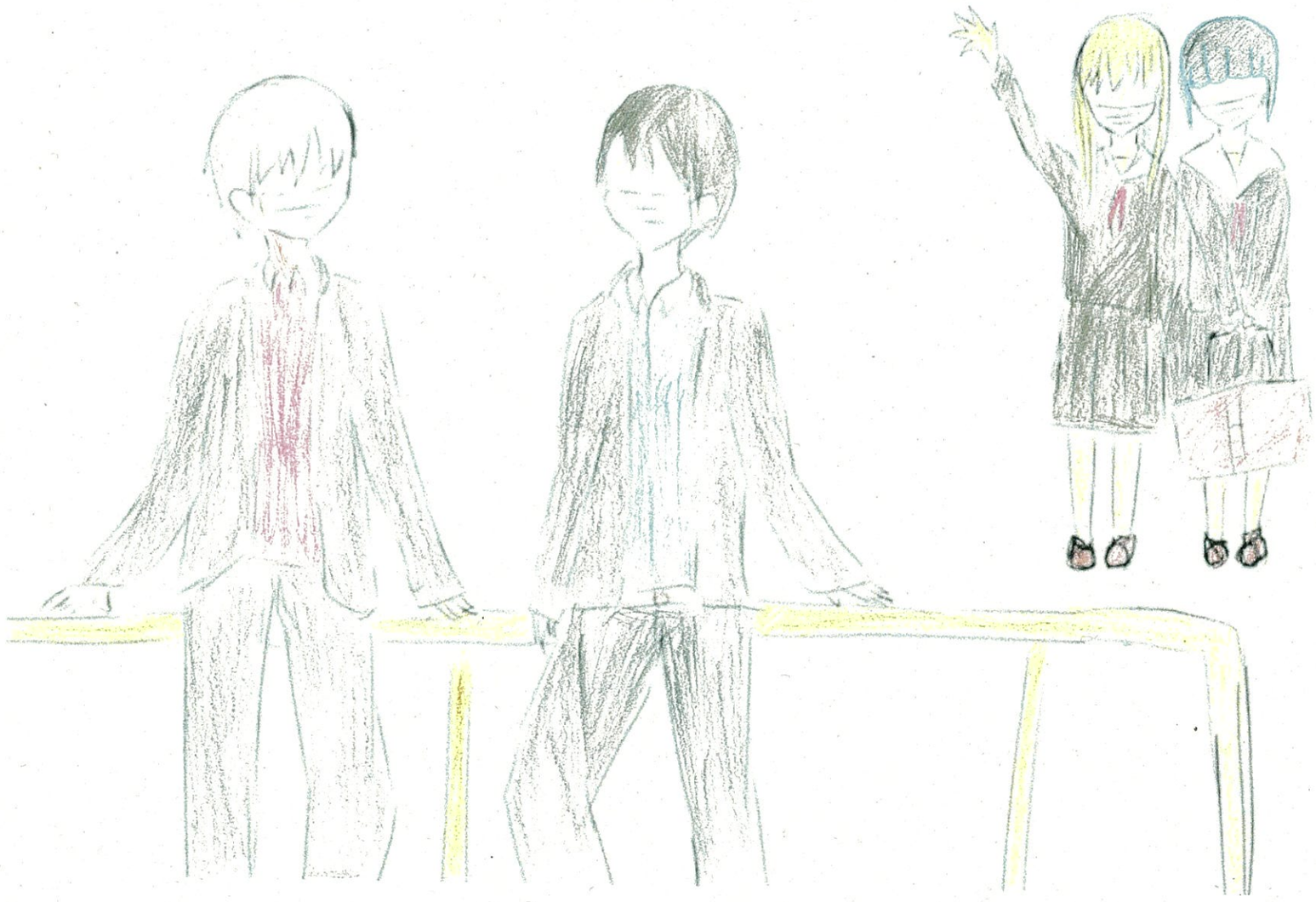
弟への愛、母親世代になった。

今日ぼくは
タカシくんと再会した。

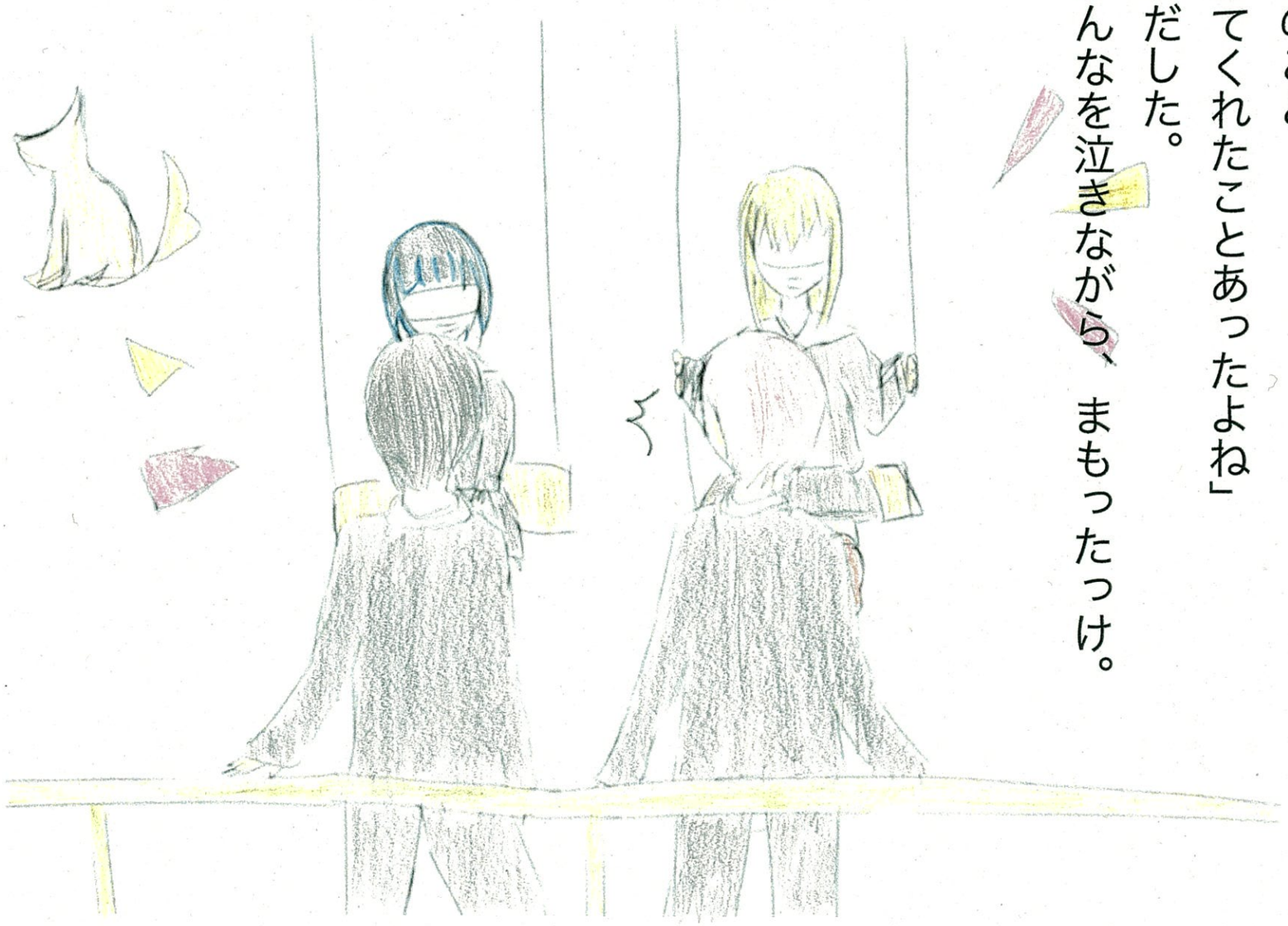


タカシくんに会うのは、ひさしぶりだった。
ぼくたちは、しぜんと話しが、もりあがっていた。
すると、タカシくんが
「おれたち、よくケンカしたよな」
「たしか、そんなこともあったね」とかえすと、
とおくから声がした。

「二人ともひさしぶりー」
小さいころ、よくあそんだショウ子とキヨ子が手を
ふっていた。



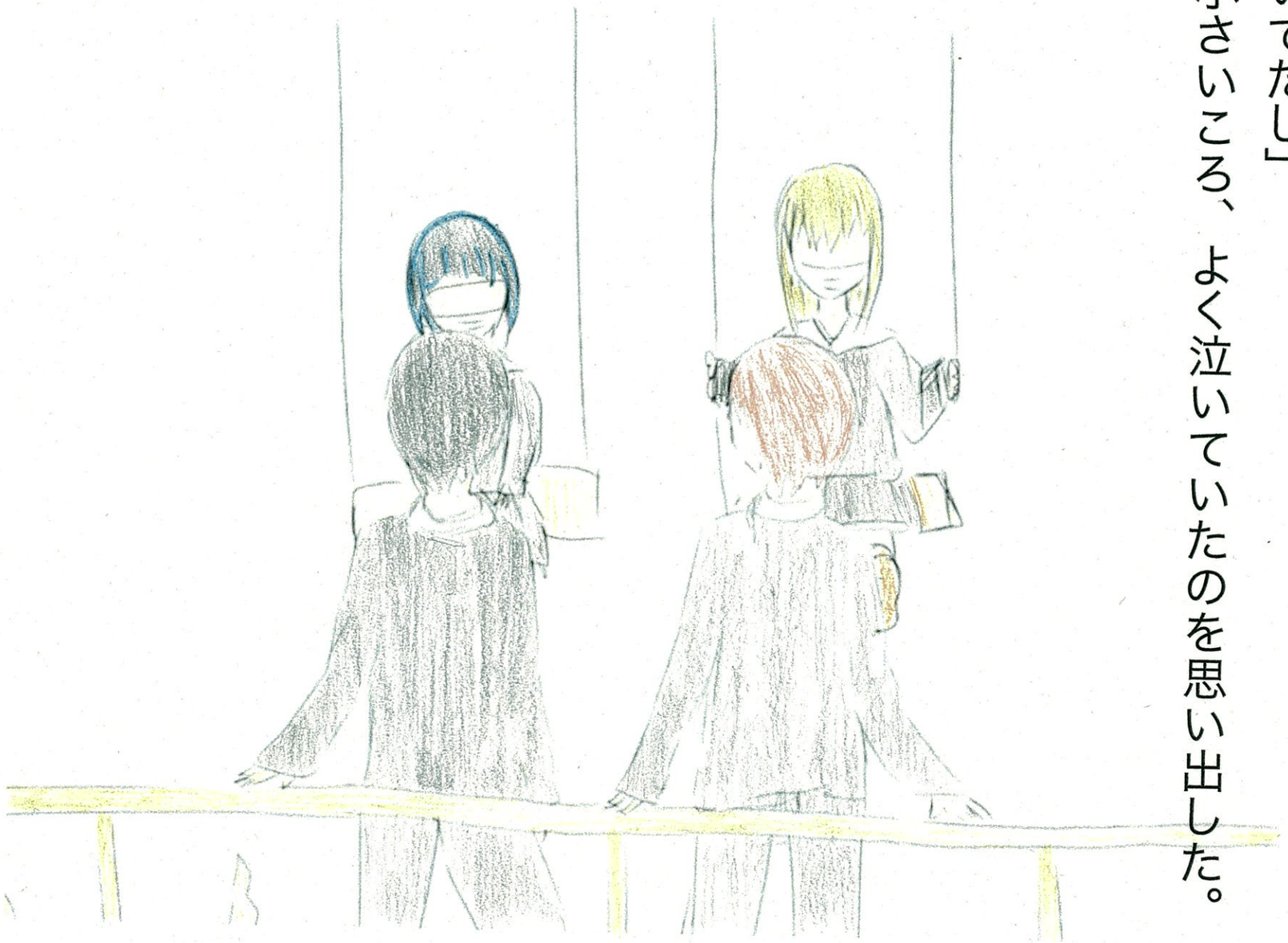
四人で会うのは、ひさしぶりだった。
なつかしそうにみんなで話していると、
犬が、近くを通りかかった。
それをみて、ショウ子がいった。
「わたしたちのこと、
犬からたすけてくれたことあったよね」
ぼくは、思いだした。
あのとき、みんなを泣きながら、まもったっけ。



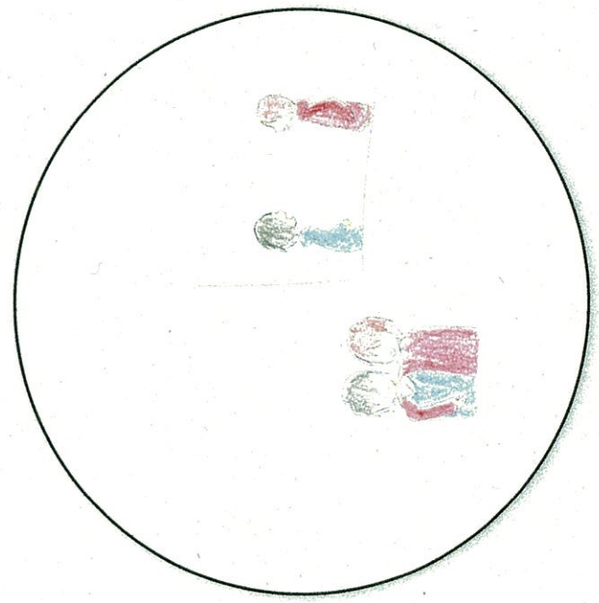
「二人とも、よく先生におこられてたよね」

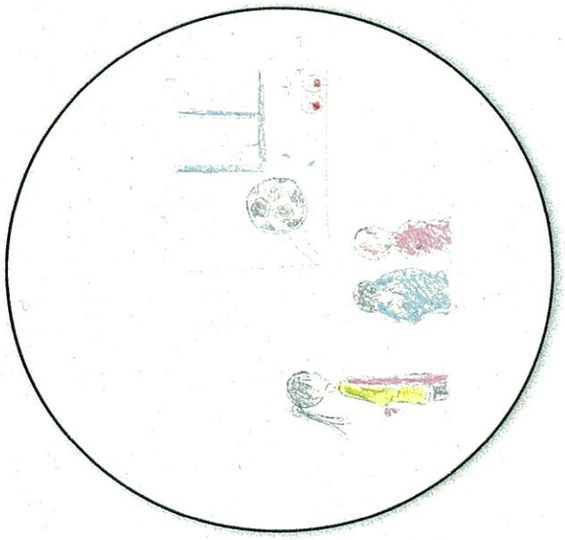
「よく泣いてたし」

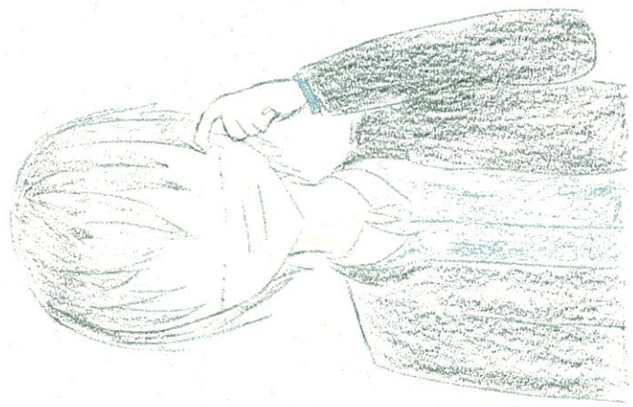
ぼくは、小さいころ、よく泣いていたのを思い出した。



はくは、小さいころを、いろいろ思い出していると
あることに気がついた。







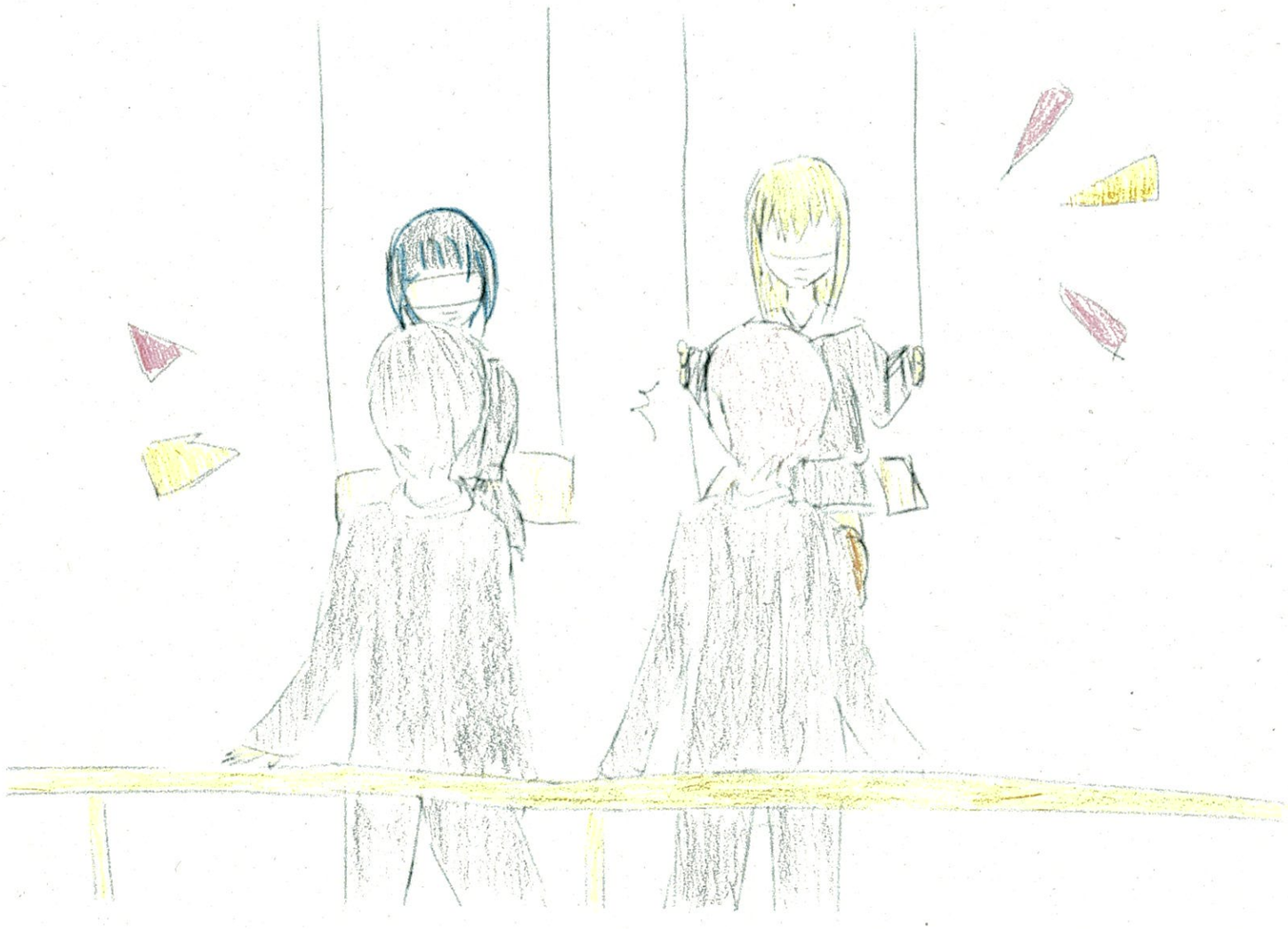
「いやな話ばかり出る。
いつか、笑い話になる」
ってんだ。

「ねぇ、聞いてる？」とショウ子の声が聞こえた。

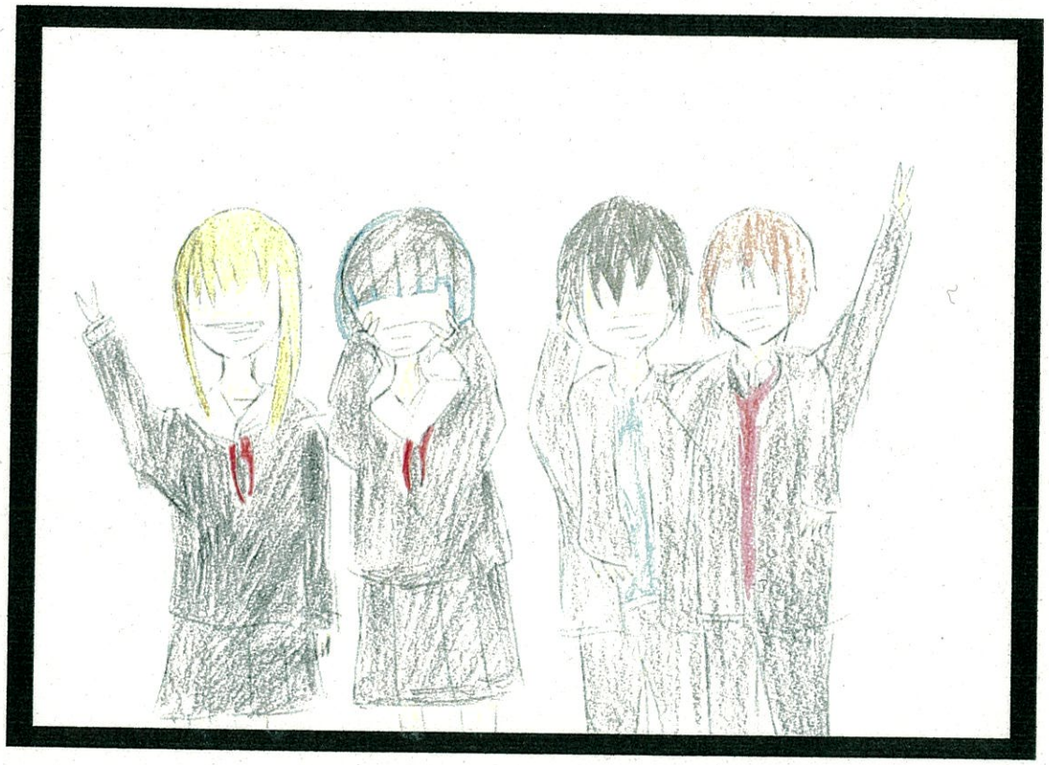
ぼくは、気づいたことをみんなに話したくなった。

「これから、悲しいこと、つらいことがあっても、いつか笑って話せる時が来るから、がんばろうよ」と、ぼくはあつく語った。
みんなは、えがおでぼくを見ていた。
「いきなりなんだよ！」
と、タカシは、はずかしそうに言った。

キーンコーンカーンコーンと、かねがなった。
「もうこんな時間！」
時計を見ると五時になっていた。
「ひさしぶりに会ったから、しゃしんでもとらない？」とキヨ子が言った。
「早くならんでー」

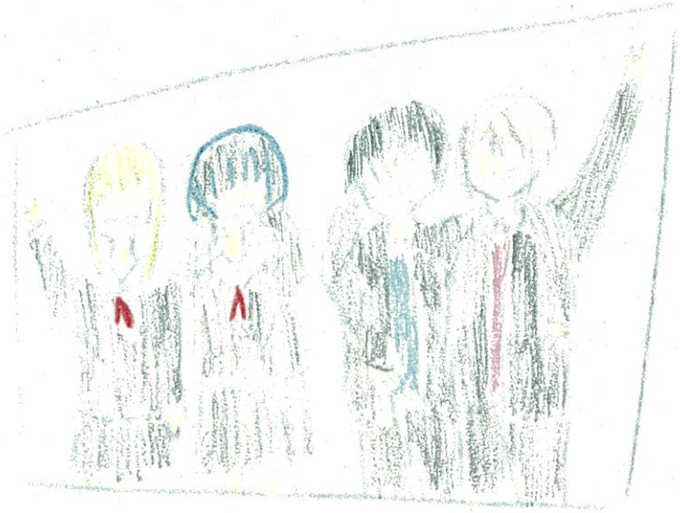


カシャッ



『いつかは、笑って話せる日が来る』

これはぼくが見つけたまほうのことばです。



「ねぇ、ママとパパなんでマスクしてるの」

「これはこれで、たのしかったのよ」